

本号に掲載された論文は、いずれも各施設の長期間にわたる経験の蓄積をもとに書かれている。それぞれの内容の差がどのようなものであれ、われわれは、それを客観的事実として受け止め、評価するという、読み方をしなければならないだろう。言い方を換えれば、それぞれの論文が意味する重みを実感として受け止めるということである。

圧巻は、中村がまとめた10人の病理医の診断結果についての報告である。関係者全員の多大な労力と費やされた時間に敬意を表すると共に、そ

の結果が、臨床診断の辛辣な期待を良い意味で裏切る結果であったことに、「胃と腸」の明るい未来を見た思いがするのは筆者だけではない。

改めて強調するまでもなく、生検診断が存在意味を持つためには、部分と全体に1対1の対応がするという前提が必要である。部分と全体が対応していて、なおかつ良・悪性の鑑別はいかに、という議論が生まれ、経過観察か、内視鏡的切除かの問題が問われるのではないかと。本号を出発点として、「部分と全体」という大きな問題を考えてみるのも一興ではないかと思う。

胃と腸

発売予定 3月25日
定 価 2,060円(税込)

3月号(第29巻・第4号) 予 告

特集／食道粘膜癌—新しい病型分類とその診断

序 説	食道粘膜癌の臨床的意義	早期胃癌検診協会	白 壁 彦 夫
主 題	食道粘膜癌の病型分類と深達度—病理の立場から	東京都がん検診センター	大倉 康男・他
	食道粘膜癌の病型分類と深達度—病理の立場から	新潟大学・1病理	中川 悟・他
	食道粘膜癌のX線診断	虎の門病院・放診	八巻 悟郎・他
	食道粘膜癌のX線診断	癌研・内科	馬場 保昌・他
	食道粘膜癌の内視鏡診断	東海大学・2外	幕内 博康・他
	食道粘膜癌の内視鏡診断	都立駒込病院・内科	門馬久美子・他
	食道粘膜癌の内視鏡診断と病型分類の問題点	千葉大学・2外	有馬美和子・他
座 談 会	食道粘膜癌の新しい病型分類の必要性	東京都がん検診センター	西澤 護・他
今月の症例	1. 0-IIa型食道癌(ep癌)の1例	千葉大学・2外	有馬美和子・他
	2. 胃粘膜下嚢胞上のIIc型早期胃癌	福井県立病院・外	細川 治・他
	3. 小さな直腸sm癌の1例	旭川医科大学・3内	野村 昌史・他

胃 と 腸 (第29巻 第2号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03)3817-5714

販売部直通 (03)3817-5659

1994年2月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

年ぎめ予約購読料27,440円(本体26,641円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03)3815-7802

振替口座 東京7-96693番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎(03)3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎(03)3814-5771

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1994, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>
- 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3269-5784)の許諾を得てください。

(担当)小松原・渡邊・江口・長谷川